

2016 年度「研究者の横顔」 関 由起子先生

1. 研究者になろうとしたきっかけ

大学院生の時に、患者さんやそのご家族と一緒に、問題解決のための研究調査を行ったことがきっかけです。

2. 助成研究の内容紹介

入院中の高校生への学習支援の一環として、現在、A 大学の大学生がボランティアとしてベッドサイドでの学習を支援しています。本研究では、この大学生が高校生を支援することの意義や効果、そして課題について明らかにします。

3. 2 の将来に繋がる結果予想・目標

高校生への学習支援問題は待ったなしです。現在入院中の高校生の進学や就職が不利にならないように、どのような学習支援が可能か、その具体策について提案していきたいです。

4. 全国の RFL 関係者に一言

学齢期の子どもにとって学校生活は人生のほとんどすべてです。学校生活がうまくいかなければ、彼らにとってがんを治すことの意味が無くなります。治療やケアに関する研究が多い中、このような学校教育支援に関する研究に助成をいただくことが出来て誠に感謝しております。